

北の縄文文化回廊  
に向けたクラブ活動



# 通 信

第 12 号



縄文染め（クリの樹皮を使用）

## 目 次

1. はじめに	2
2. 平成21年度活動一覧	2
3. 各活動内容・参加協力	2～6
4. 学習・ヒエの試験栽培	7
5. 報告	7・8
6. お知らせ	8

## 1. はじめに

平成21年度の活動は、会員の皆様のご協力のもと無事終了することができました。また、初めての試みである縄文染めにも挑戦することが出来ました。今年度は函館開港150周年の記念の年にあたり、関係団体との連携した活動としてNPO法人函館市埋蔵文化財事業団主催の縄文の道フォーラムに後援団体として参加し、ワークショップでの「釣り針づくり」に協力しました。また、市立函館博物館主催の「ジュニア考古学ハカセ養成講座」の指導協力もさせていただき、子供達と一緒に有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も関係機関と連携しながら、縄文文化の普及活動をしていきたいと思っております。以下、平成21年度の活動内容を報告します。

## 2. 平成21年度 活動一覧

活動日	主な活動	参加人数	活動場所
5月30日	第12回「北の縄文CLUB」総会	30名	南茅部公民館
6月26日	糸づくり 大船遺跡内草刈り	15名	大船遺跡展示館 大船遺跡周辺
10月2日	自然観察会 (植物・鮭の遡上見学)	15名	大船遺跡展示館周辺 大船川
10月3日	縄文染め	20名	南茅部公民館
11月28日	アンギン編み	20名	南茅部公民館
2月6日	キャンドルdeナイト	30名	南茅部公民館周辺

### (関連活動)

4月29日	シーニックバイウエイ 清掃活動	五稜郭公園周辺
5月22日	南茅部森と海の会 植樹会参加	大船遺跡
6月12日	ひろめ舟祭り 共催(縄文・伝統文化展示コーナー)参加協力	白尻漁港
7月11日	土器づくり・土笛づくり	みなみかやべ公民館
8月29日	土器野焼き 試験	大船遺跡体験学習 広場
9月2日	縄文文化普及・活用検討ワーキング会議出席	函館市
9月11日	縄文文化体験ツアー 縄文の土笛づくり指導	南茅部公民館
11月3日	南茅部地区文化祭 土器・アンギン・草木染作品出展	南茅部公民館
12月11日	縄文の土笛づくり 指導・協力	函館市西高等学校
1月16日	アンギン編み親子体験教室 指導・協力	市立函館博物館
2月15日	渡島地域の縄文文化遺跡の活用に向けた勉強会	南茅部公民館
2月18日	歴風会チャリティー出席	函館市
2月26日	シーニックバイウエイ ルートミーティング参加	函館市

### 3. 活動内容

#### (1) 大船遺跡内草刈り・植物観察会

6月27日（土）午後2時、当会員で樹木医でもある斉藤嘉次雄先生を講師に、三内丸山応援隊の方達とともに、大船遺跡内と周辺に生息している植物についての観察会を行いました。当日は曇りでしたが、風もなく穏やかな日のなかで実施しました。

集合場所の大船遺跡展示館を出発、斉藤先生から植物や自然について解説を受けながら林道沿いに進みます。ミズナラとコナラなどよく似た植物の見分け方や、エゾニワトコとニワトコ等の北海道と本州で生息する植物の違いを教えてくださいました。また、多くの外来種の植物が大船遺跡内に繁殖していること、三内丸山では外来種であるブタナが繁殖しており、大船遺跡での今後を心配されていました。観察会往路の終点は「大船の杉」です。樹齢百数十年で、函館市の文化財にもなっています。明治時代に行われた北海道での第一回造林事業に伴い植林されたそうです。いつ見ても雄大なこの杉は南茅部の近・現代の歴史を見つめてきた証人のように思います。観察会の帰路では、山菜のミズ（ウワバミソウ）を採取できたので皆さん大喜びでした。周囲の山々からは、エゾハルゼミの声も聞こえ、春から夏へと移りゆく風情を実感できました。（平神）



この植物はなにかな？



ミズの皮むき法伝授

#### (2) 縄文染め

6月28日（日）に縄文染めを行いました。事前準備として、前日に材料の栗の樹皮を煮詰める作業を青森県三内丸山応援隊の方達の手ほどきで、約4時間から5時間位ステンレス鍋を使って煮ておきました。この染液に用いられた材料は、三内丸山遺跡内の掘っ立て柱（6本柱）に使われている栗の樹皮と大船遺跡の復元竪穴住居内の柱に使われている栗の木の樹皮を混ぜて煮詰めたもので染液を作りました。

染料の特徴は絹やウールなどの動物性繊維にはよく染まり、木綿のような植物性繊維には染まりにくい性質があるそうです。今回は木綿のハンカチを使って染めるので、染めやすいように下処理をしなくてはなりません。あらかじめ、講師の斉藤先生に下処理をしていただいたので、直ぐに染



めに入ることが出来ました。染めの手順は木綿のハンカチを輪ゴムで思い思いにきつく縛ったり結んだりしたものを使用します。次に鍋を火にかけ、沸騰させないで80度から90度に抑えます。染めるときは沸騰させないで15分程度つけおきし、まんべんなくかき混ぜます。次に2回焙煎液につけます。これは色が落ちないようにするためです。次に水洗いをし、脱水をします。最後につやをだすために洗剤で洗います。脱水をし、仕上げにアイロンがけをして完成です。



栗の樹皮の染料液



よく水洗いをする



染め上がったハンカチ



アイロンがけして完成

媒染液によっては仕上がりの色も違うので、焙煎液を変えることで楽しみも倍増します。みなさんも草木染に挑戦してみたいはいかがでしょうか。参加された皆さんは「とても楽しかった」、「世界に一つだけの私のハンカチが出来た」と喜んでいました。

### (3) 土器づくり

今年の土器づくりは、種々検討した結果、近隣に野焼きを実施出来る場所が確保出来ない為、一時中止との意見もありましたが、森町でオニウシ工房縄文会を主催する磯尾さんが、毎年実施している土器づくりへの参加を呼びかけてくれました。8月2日、当クラブ会員10名が、縄文土器づくりに参加しました。(磯尾さんは当会会員です。)土器づくりの会場となったネイパル



思うようにいかないな

森（北海道立森少年自然の家）では、私達クラブ会員を含め、60人ほどの参加者が思い思いの土器を作り上げました。

#### （４）野焼き

8月16日（日）、晴天ほぼ無風という好天に恵まれ、ネイパル森の広場で野焼きを実施しました。この日は鹿部小学校の児童、約50名が学校で作った土器を持って参加しました。賑やかな野焼きに成りました。焼き上がりのときが心配になります。割れずに焼けるだろうか。万遍なくきれいに火が回るだろうか、焼き模様がうまく出てくれるだろうか、色々気になるものです。ところで不器用な私としては、縄文人はみんな土器を自作していたのだろうかと考えてしまいます。縄文人が残した土器を復元してみると実に上手に焼き上げていることがわかります。しかし、炊事道具、容器や食器などに利用した土器は消耗品だったはずで、大量に作る必要があったと思います。土器に適した良質の粘土を産出する場所は限られています。石器の場合、素材となる石が手に入る場所で量産され、かなり広い範囲に運ばれていたことが知られています。しかし土器は原料となった粘土の産地の特定が難しいようです。中空土偶～茅空～を見ても、土器を作るスペシャリスト集団がいて、大量生産をした各種土器が周辺各地に運ばれていた、としても不思議ではないように思えるのです。土器づくりを体験しながら、縄文時代と縄文人の生活を色々具体的に想像することが出来るのも楽しみの一つです。皆さん、マイ縄文土器作りに挑戦しませんか。（横堀）



良く焼けたかな

#### （５）糸づくり

10月18日（土）午前10時から大船展示館前の広場で、糸づくり講習会を行いました。シートを敷き、叩き台を設置して作業開始です。材料は、葉を取って乾燥保存していたカラムシ・エゾイラクサ・アカソでした。茎を一握りほど手に取り、叩き台の上で木槌を使って茎を叩きつぶして繊維を取り出します。

周りには、もうもうとほこりが舞い、木の打ち合う音が響き渡ります。遺跡を見学に来られた人達も何事かと思い一斉に振り向きました。

最初は怪しそうに見ていた人達も、次第に作業している側に寄ってこられ、縄文時代の糸や布について話が盛り上がりました。やがて、冷たい風とともに霧が北西から立ちこめ、雨も降ってきたので作業は一時中断。様子を見て再開しましたが、天候が回復する見込みがなさそうなので、早々に終了しました。残念ながら、繊維を撚って糸にするまでには至りませんでした。

（平神）



根気のいる作業だね



綺麗に繊維がとれたよ



糸づくりに挑戦しま〜す

#### (6) キャンドルdeナイト2009 (シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート)

2月6日(土)午後3時半に南茅部公民館に集まり「キャンドルdeナイト」の準備が始まりました。事前に用意しておいたキャンドル約200個を公民館周辺の道路わきに、50cm間隔で並べていきます。その頃はまだ、天候も普通でした。全て並べ終えたので、休憩に入りました。お手伝いしていただいた方達のために豚汁とおむすびを用意したので、軽く腹ごしらえをしました。30分休んだでしょうか、点灯の時間になったので外に行ってみると猛吹雪、並べているキャンドルは吹き飛び、とても点灯できる状態ではありませんでした。せっかく準備したのに・・・みんなで話し合った結果、ささやかではありますが、公民館の玄関先に灯すことにしました。去年はぼたぼた雪でキャンドルの火が消えてしまい、今年は強風と雪で、自然の力にはかないません。昔も自然の力に左右されながらも強く逞しく生きてきたのではないかと思います、何のこれしき。来年も頑張ります。



うまく出来たわね



こうなるはずでした

## 4. 学 習

### (1) ヒエ試験栽培

今回で2回目のヒエの栽培を行いました。去年は5月18日に種まきをしましたが、今年は少し遅れてしまいました。大船遺跡の復元盛土遺構の横にある遊歩道の下の緩斜面に、長さ5m、幅1mの植床に、ヒエ穂22本分を2筋蒔きにしました。

7月7日、3cm程度の芽を確認、8月29日には穂がでていました。10月18日に収穫を行いました。



昨年の収穫量は2,140グラムでした。今年は天候が悪かった為、昨年ほどの収穫ではありませんでした。グラム数はまだ測っていませんが、ただ今乾燥中です。



穂摘みの様子



ふっくら実ったヒエ

## 5. 報告

### (1) 指導協力

市立函館博物館主催の「ジュニア考古学ハカセ養成講座」に講師依頼がありました。同講座は小学生高学年（4～6年生）を対象に考古学のスペシャリストを養成しようと本年度から実施したものだそうです。8月11日(火)には、シカの角で釣り針をつくり、その完成した釣り針で釣り体験にも挑戦しました。

最終回となる1月13日(火)には、当クラブオリジナルの編み機を使ってアンギン編みに挑戦しました。参加者は楽しそうに編んでいました。付き添って来ていたお母さん達も子供達に負けまいと夢中で編んでいました。子供達は自分のできばえに満足そうな笑みを浮かべていました。



こんなふうにはるんだよ



かっこういいだろ



アンギン編みの手ほどき

### (2) ひろめ舟祭り

6月13日(土)、臼尻漁港にて第24回函館市ひろめ舟祭りが開催されました。当クラブ会員の赤沢漁船工機社長の提案で、10年ほど前に津軽海峡を横断渡海した縄文の舟を旧戸井町より借用し、化粧直しをした後の船内に出土した遺物の模造品などの展示をするために事務局のメンバーで準備を進めてきました。展示の目的は函館開港150周年と縄文文化交流センター着工記念として行われるもので、函館市南茅部縄文文化創生の会・函館市埋蔵文化財事業団・南茅部高校縄文クラブ・当クラブの4団体の協賛で実施しました。他にも沢山の方達に協力いただきました。縄文舟の船内に天板を

置き石囲炉を作り、周りにクラブ会員制作の土器、石器、石鏃、鮑の貝に入っているアスファルト、国宝中空土偶、写真パネルや生昆布を満載しました。当日は沢山の人に見ていただきました。縄文時代の暮らしや文化に興味を持っていただけたら嬉しいと思いました。

ちなみに写真左から2番目が私です。(大宮)



縄文の舟の前で記念撮影

### (3) 北の縄文CLUB会長紹介

平成21年6月16日(火)の毎日新聞に当クラブ会長の**大宮とし子**さんが紹介されましたのでその一部を紹介いたします。“狩猟や採集、漁労を中心に自然と共生しながら、1万年以上続いた縄文時代。函館市南茅部地区には多くの遺跡が点在しています。「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を目指し、私達北の縄文クラブは普及活動を通し、これからも縄文遺跡の魅力を紹介していきたいと思っています。”と抱負を語っていました。

### (4) 竪穴住居復元

昨年秋から国史跡大船遺跡で函館市教育委員会によって行われていた竪穴住居の復元工事が完了しました。南茅部地域に新たな縄文文化体感施設が完成。是非見に来てください。



復元された竪穴住居



茅葺きの住居

2010年6月30日

第12号発行

発行 北の縄文CLUB  
連絡先 北海道函館市白尻町 603-1  
特定非営利活動報人  
函館市埋蔵文化財事業団内  
TEL 0138-25-5510  
FAX 0138-25-5606